

## 2018/19 シーズンのA群ロタウイルスの検出状況について

### <近年のA群ロタウイルスの流行>

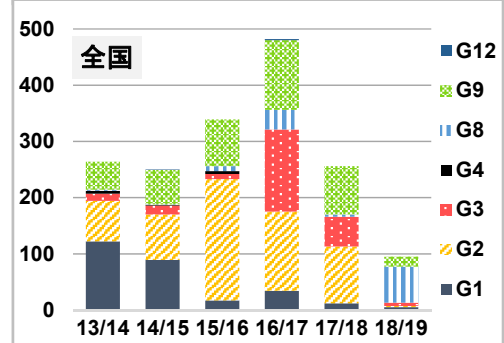
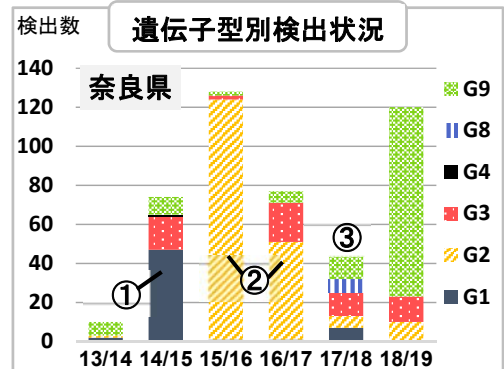
日本では2011/12シーズン（例年9月～8月までの1年を「シーズン」として）にワクチン接種が始まりました。奈良県ではその後2013/14シーズンに患者数が激減しましたが、①2014/15シーズンにはG1型の流行が見られ、②2015/16シーズンおよび2016/17シーズンはG2型が主流株となりました。③2017/18シーズンは2013/14シーズンに次いで検出数が少ないシーズンでした。

### <調査結果>

感染症発生動向調査事業において2018/19シーズンのうち、2018年8月～2019年5月10日までに検出したRVAの症例120例について、解析を行いました。検出した遺伝子型はG9型（97株、80.8%）、G3型（13株、10.8%）、G2型（10株、8.3%）でした。患者年齢は1歳代が最も多く、0～2歳代が50%を占めていました。今シーズン主流のG9型の患者平均年齢は3.4歳でした。なお、ワクチン接種歴のある患者は120例中69例（57.5%）で、1価ワクチンが32例、5価ワクチンが36例、ワクチン種不明が1例でした。接種歴のある患者の遺伝子型はG9が63例、G3型が4例、G2型が2例でした。全ての症例に下痢の症状が見られましたが、1日に5回以上下痢の症状があった症例はワクチン接種歴ありでは9例（13.0%）、接種歴なしでは15例（29.4%）でした。入院や外来点滴施行が必要となる重症例は13例で、そのうちワクチン接種歴がない患者は10例でした。遺伝子型別に見るとG2型が6例、G3型が4例、G9型が3例でした。

現在のところ、奈良県を除く他府県は2018/19シーズンではG9の割合は高くありませんが、近年増加傾向にあり、ワクチンに含まれていない遺伝子型でもあるので、今後の流行に注視したいと考えています。

今後も継続したウイルス動向のデータを蓄積し、県内の流行の変化・変動を詳細に解析・把握に努めていきたいと考えています。奈良県感染症発生動向調査にご協力いただきますようお願いいたします。



※全国データは病原微生物検出情報2019年5月30日参考  
奈良県のデータと型別不明を除いています

